

盛京病院、中国

医療画像の質は生死を左右する

病院

名称：盛京病院(中国医科大学附属第二病院)
所在地：遼寧省瀋陽
病床数：2300床
職員数：3100人

課題と今後の可能性

- ・多数の患者-厳しい予算
- ・効率の最適化
- ・診断精度の向上

ソリューション

- ・Nio 5MPディスプレイ 4台
- ・Nio 3MPディスプレイ 10台

バルコを選んだ理由

- ・市場のリーダー
- ・確立している品質評価
- ・製品の性能

長所

- ・診断精度
- ・コスト効率の高さ
- ・信頼性 (最長実行時間)



顧客体験

”バルコの助けを借りると、最も正確な診断を確実に下すことが可能になります。世界に通用する医療を患者に提供し、当大学の学生に適切な教育を施すというわれわれの使命にまさに適合します。

Guo Qiyong 医師
盛京病院院長、放射線科主任

中国東北部で最大の医療機関である盛京病院では、治療の質の絶え間ない向上が追求され続けています。盛京病院の経営陣は、PACS(医療用画像保存通信システム)の導入によって、効率化とコスト削減、そして何よりも医療サービスのさらなる強化に成功し、中国国内の病院の模範となっています。

病院経営陣がバルコに着目したのは、それまで導入していたCRTディスプレイが、絶対の正確性と信頼性を求める放射線科の医師たちの高い要求に応えられなくなったためです。そして、バルコのNioディスプレイ14台が設置されました。新しい装置による診断では、精度と信頼度が格段に向上し、確実に良い結果が患者にもたらされています。

「高品質の診断用ディスプレイ技術は、文字どおり生か死かを左右することもあり、われわれのチームにとって重要な問題です。実際、もはやバルコのディスプレイなしに作業することは考えられません」と、盛京病院の放射線科副主任を務めるLiao Wei医師は語ります。

盛京病院では、バルコのソリューションにきわめて満足した結果、このほどNioディスプレイをさらに20台導入しました。

BARCO

Visibly yours

盛京病院はバルコディスプレイを利用し、信頼のおける診断画像の活用をリードしています。

大学病院の指命は、明快ではあるものの困難なものです。つまり、医療サービスの基準を常に高め続け、最先端の医療を達成する、という使命です。大学病院とは、国の粋を集めた医療センターであり、未来の医師を育てる場所なのです。ですから、患者の治療や介護、職員、育成プログラム、研究活動、そして医療機器と医療用品の分野などあらゆる分野において、高品質への追求が行なわれています。盛京病院は、その実践において最高の実例となっています。誤りのない診断を確実に下すために、盛京病院の放射線科ではバルコのNioディスプレイを活用しています。

医療用画像保存通信システム(PACS)による 効率の向上

一例をあげると、放射線科では年間30万件前後の検査を実施します。この大部分、およそ3分の2は、まだ従来通りのX線による検査です。しかし同病院は徐々に、コンピュータ断層撮影法(CT:年間8万人)、磁気共鳴診断(MR:年間2万人)PET/CTスキャン(年間1000人)、マンモグラフィ診断(年間5000-6000人)などといった、ほかの画像診断システムに重心を移しつつあります。

検査件数が急速に増大している中で、放射線医学における画像の取得と保存、処理、表示は膨大なタスクとなります。放射線科では2001年、効率を一気に向上させられるソリューションを見つけました。地元のソリューション・プロバイダから強力なPACSソフトウェアを導入したのです。「従来のフィルムによる医療画像を保存して検査していた当時は、1日に200件ほどしか検査できませんでした。PACSの導入以降、われわれは1日に1000人ほどの患者を検査しています」と、放射線科副主任のLiao Wei医師は説明します。「効率は一気に上がりました。その上、PACSによってコストを削減でき、誤診も減りました」

最高の品質と高いコストパフォーマンス

とはいえ、放射線科のチームが100%の確信を持って診断を下すためには、信頼性の高いPACSソフトウェアだけでは十分ではなく、医療ディスプレイの品質も重要です。最近まで盛京病院で使われていたCRTモニタでは、必要な正確さを得ることがまったくできませんでした。「マンモグラフィ画像に関して言えば、CRTモニタでは乳がんの早期発見に必要な解像度と画像のコントラストが得られなかったため、従来のフィルムに頼るしかありませんでした」と、Liao Wei医師は認めます。「ほかの多くの症例でも、初期診断か追跡検査かにかかわらず、スクリーン上の画像では信頼できる結果が得られるほど鮮明でなかったため、従来のフィルムと比較検討して使っていました」。こういう状況だったため、盛京病院では、CRTモニタに代えて液晶表示技術を採用しようという動きが活発になりました。

液晶モニタを選定するに当たっては、コストも重要でしたが、病院側は、入手できる最良の品質のものでなければ受け入れるつもりはありませんでした。そこで選ばれたのが、コストパフォーマンスの良い最先端技術である、バルコのNioディスプレイです。Guo Qiyong医師は次のように語っています。「バルコは、医療の可視化分野に関して第一人者としての確かな評価を得ていたので、提携することには大賛成でした。Nioディスプレイは当時発売されたばかりでしたが、われわれのニーズに合わせて特注したかのように思えました。期待に背かないきわめて優れた画像を、納得のいく価格でもたらしてくれました」



「PACSによってコストを削減でき、誤診も減りました」
—Liao Wei医師

院長兼放射線科主任であるGuo Qiyong医師は、次のように語ります。「われわれは、多くの医療分野において、最新技術による実験的かつ先進的なサービスを提供することによって、中国全土に名を知られており、患者中心の取り組みで非常に高い評価を得ています。われわれの仕事に対する称賛の声が国中に広がるにつれ、さらに遠い土地から訪れてくる患者の数が年々増大しています。患者側からの要求は大きくなる一方であり、われわれは可能な限り最高の医療を提供することに専念しています」。急速に増大する患者数は、現時点で1日に7000人から8000人にのぼっており、盛京病院にとって難題となっています。「仕事量は膨大です」とGuo Qiyong医師は述べます。「そのため、質を落とすことなく効率を高める道をつねに探しています」



「バルコのディスプレイでは、必要なあらゆる細部が明瞭に表示されます」-Liao Wei 医師

診断の信頼性

盛京病院はバルコと、Nio 3MP (MegaPixel) ディスプレイ10台とNio 5MP (MegaPixel) ディスプレイ4台を、放射線検査の読み取り室に設置する契約を交わしました。バルコは、地元業者との緊密な連携のもとに、ディスプレイの設定とPACSとの統合を巧みに進めました。

現在のところ、放射線医学部門の40人の医師たちが、診断の読み取りにバルコのディスプレイを利用しており、システムは誰もが満足する働きをしています。「バルコに切り替えたことで、効率を上げながら診断力を強化するという当初の目標が達成できました。バルコのディスプレイなら、必要なあらゆる細部が明瞭に表示されます。画質の鮮明さと明るさは申し分ありません。画像の切り替えや拡大、左右反転、あるいは任意の角度に回転させるといったことが簡単にでき、目指す細部を見ることができます。同様に大切なのが、安定した画像品質と高コントラストです。それに加えて、バルコのディスプレイは画像の読み込みが速くきわめて信頼できます。われわれの仕事量の膨大さを考えると、無駄な時間は許されないので、これは必須条件です。実際、バルコのディスプレイなしに診断を行なうことなど想像もつかないのが現実です」と、Liao Wei 医師は笑いました。

病院の経営陣も、このソリューションの総所有コストの素晴らしさを称賛しています。コスト効率だけではなく、従来のCRTモニタに比較して消費電力が少なく、製品寿命も長いからです。Liao Wei 医師は次のように話しています。「残念なことに、CRT画面では色の明るさと鮮明さが1、2年で落ちてきます。バルコ製品の寿命は大きく上回ると確信しています」

病院の使命を達成する

「医療用デジタル画像は確実な可能性を持つ技術であり、バルコは掛け値なしにこの分野の第一人者です。このディスプレイを使って作業することができ、学生たちをこの先端技術に習熟させることができることを、嬉しくまた誇りに感じています。バルコのおかげで、最も正確な診断を確実に下すことが可能になります。これは、世界レベルの医療を患者に提供し、学生に適切な教育を施す、というわれわれの使命にまさに適合するものです」と、Guo Qiyong 医師は話を結びました。



「バルコに切り替えたことで、効率を上げながら診断力を強化する、という当初の目標が達成できました」

-Liao Wei 医師



盛京病院

遼寧省瀋陽に位置する盛京病院は、中国東北部で最大の病院です。病床数は2300床を超え、入院と外来の双方で総合医療を提供しており、年間で外来患者180万人、入院患者6万8000人の治療にあっています。中国医科大学付属病院として、医学部博士課程の学生300人と修士課程の学生500人に対して臨床研修も実施しています。

盛京病院では、教授と准教授合わせて416名を含む3100人の医療スタッフが最先端の医療技術を活用しており、急激に成長を遂げる中国の医療分野における模範となっています。



専門医師



Guo Qiyong 医師は盛京病院院長であり、放射線科主任および医療画像部門長を兼任しています。また、教授の職にあって博士課程学生のアドバイザーも務めています。さらに、中華医学会(CMA)と中国医学技術研究協会(China Medical Technology Research Association)で、放射線医学部門の常任委員の地位に就いています。



盛京病院放射線科副主任を務める**Liao Wei 医師**は、医学博士号を有しています。腹部の画像診断に定評のある専門家として、Liao医師は医学部学生たちの指導にあたり、中華医学会放射学会(CSR)に委員として参加しています。

Request more information

Europe, Middle East, Africa
& Latin America
Phone: +32 56 233 557
sales.medical.eu@barco.com

North America
Phone: +1 866 302 7939
sales.medical.us@barco.com

Taiwan
Phone: +886 2 8221 6868
sales.medical.apac@barco.com

South Korea
Phone: +82 2 2175 8900
sales.medical.apac@barco.com

China
Phone: +86 21 5465 5501
sales.medical.apac@barco.com

Singapore
Phone: +65-6243.7610
sales.medical.apac@barco.com

Australia
Phone: +61 3 9646 5833
sales.medical.apac@barco.com

Japan
Phone: +81 3 5762 8715